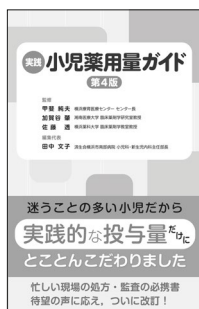


Book Review

監修：甲斐純夫，加賀谷 肇，佐藤 透，編集代表：田中文子

実践 小児薬用量ガイド 第4版



しほう
2024年3月発行
476頁（A6変型判）
3,630円（税込み）

白衣ポケットに携帯可能な小児薬用量の最新版「実践 小児薬用量ガイド 第4版」が早くも出版された。小児薬用量は、Von Harmack表をはじめYoung式、Crawford式、Augsberger式、Clark式などといったさまざまな方法で算出される。臨床現場ではこれらをていねいに確認している時間的余裕はなく、小児薬用量が簡潔にまとめられた携帯型の書籍は非常に頼もしい。現在、小児薬用量に関する書籍は数社から出版されているが、それぞれの書籍が特徴ある構成になっている。

本書の特徴は、見やすいレイアウトに徹底的にこだわっている点である。薬用量も体重換算であり、成人量も明確に併記されている。成人量から類推することで、成人量を越えた処方過剰の防止や体重換算した薬用量の妥当性も容易に確認することができるだろう。また、小児科診療に携わる視点から必要な情報が簡潔にまとめられた「作用、注意事項、製剤のポイント」欄は改訂を重ねるごとに充実してきた。編者にとっては、限られた紙面での収載医薬品の選定は大変な作業（戦い）であったと推察するが、表題に「実践」と謳われているように、通常診療を行ううえで苦勞しない適度な医薬品の収載量になっている。

近年、新薬開発や小児適応の拡大ペースは早い。本書も10年間に第4版までの改訂を重ねている。今後も改訂をこまめに行いエビデンスを確認していくことで、時代に即した最強の小児薬用量の一冊となるであろう。

（国立成育医療研究センター総合診療科 島袋林秀）